



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン

ぼん子画

(530-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3マツイ・ビル 201 TEL: 06-6354-3011

お笑いエッセイのメール発信をご希望の方は、ご連絡下さい。(E-mail: daimao@travelmitra.jp)

「紅葉の小径を独り歩け」

「わが愚夫・大魔王よ！地震がおきて、わらわが圧死したらどうするの！」

と賢妻の厳しいお叱りで、屋根うら部屋の蔵書を処分してから数年が経った。もう本は買うまい、買って捨てるかと思いつつ捨てるので、徐々に増えきた。

わがミトラ城近くの天満宮で、毎年古本市がある。仕事の合間にぶらぶらするのが楽しみだ。見るだけと思いつつ、結局一冊 300 円は安い！と思って、また数冊買ってしまった。

その内の一冊が、『哲学のすすめ』福田定良著である。いまさら入門書を読んでどうするの、と思わないわけではない。福田先生は恩師でもあるので一冊読んだことがあったが、『哲学のすすめ』は読んだことがなかった。福田先生は“正統派哲学者”、とは言い難く、もっぱら近所の社会人を相手に対話を楽しんでいたようだ。(学生運動家やわが輩のようななまちょろい) 学生なんかを全く相手にする気がなく、そうそうに「教授」を辞めてしまった。だれにでもできる大衆の「哲学」を求めていたようだ。

それなら、今や社会人の“おっさん”になったわが輩が読んであげようじゃないか、と勇んで、手垢のつかない本を数ページめくってみると、行間に線が引いてあった。そのあとに線引きがなく、おそらく、元の購読者は「この本は読めない！」と思って、“積ん読”になったとおもわれる。

さらに数ページ読み進むと、わが輩は「これは、じっくり時間をかける必要がある・・・」と覚り、とりあえずは“積ん読”ことにした。もし読破できれば、いつか感想などを述べてみたい。

まずは、インドと「日本哲学」についてのエピソードを一つ紹介してみよう。

2023年8月8日京都で、日本インド文化経済センターのオープニング式典があった。文化経済となっているが、「経済」がメインのセンターだと見極めた。京都府知事、京都市長、インド大使、総領事等の定例の挨拶があった。知事はインドに行った事がないが、門川大作市長はゼロ泊三日でインドに行ったことがあるそうだ。その市長の話が面白かった。

2014年首相として初めて来日したモディ首相の秘話である。来日に先立って、某政治家から市長に電話が入った。

「モディ首相が京都訪問を望んでいる。なんとかならないか」

市長は念のために外務省に問い合わせたが、「そういうことはありえない」との返答であった。すでにスケジュールは東京で決まっていた。

ところがインド側から市長に連絡が入り、京都訪問が決まった。モディ首相は一日早く羽田空港に着いて京都にやってきた。

そこで急遽安倍晋三首相が新幹線で京都に出向くことになった。わが輩はこのことを新聞で知っていたが、安倍首相のおもてなし、深慮遠謀だと思っていた。実は、モディ首相が安倍首相を京都に引き寄せたのである。

モディ首相は金閣寺訪問以外に、京都大学 i P S 細胞研究所を訪問している。先端技術で追い上げるインドとしては必須の訪問先である。だが、わが輩の興味を引き付けたのは、それではない。

門川市長によると「首相は『哲学の道』を歩きたい」と要望してきたという。哲学者西田幾多郎が毎朝歩いて思索にふけたという、銀閣寺と南禅寺間の散歩道（約2キロ）である。細い流れの疎水の脇にある小径である。最近では若いカップルの逢瀬路になっている。

一体誰が「哲学の道」の存在を教えたのか。とても、ヒンドゥー至上主義的なモディ首相が、「日本哲学」に興味をもっているとは思えない。モディ首相、いやインド人はインド哲学宗教が最高だと思っているふしがある。

それなら、なぜ「哲学の道」を所望したのか、ぜひ聞いてみたいものである。

モディ首相は「行者」的な側面をもっていたらしい。ヒマラヤ山中を遊行していた時期もあったと言われている。そして、出家僧（スワミー）になるべく、ラーマクリシュナ・ミッションの高僧に出家を願い出たが、師は次のように応えたという。

「あなたは出家者になるより為すべきことがある」

高僧は、彼の適性を見抜いていたのであろう。わが輩の推測だが、彼が早くからヒンドゥー右派RSS（民族義勇団）で活動していたことも理由の一つかもしれない。僧団は政治的色合いを好まない。それに僧団入門の一条件である学歴が満たされていなかった。さらに問題となるのは、カーストの慣習とはいえ、モディは18歳で結婚していたことである。（もっとも彼はすぐに家庭を放棄したが・・・）この僧団では既婚者を受け容れていない。

モディ首相は若いころからRSSで活動していたので、ヒンドゥー・ダルマ（真理・宗教）が染みついていて考えられる。「日本哲学」、言うまでもなく福田先生の「日本大衆哲学」などに興味をもつはずがない、とわが輩は思う。

それなら、モディ首相と「哲学の道」の関係は、一つの謎といえる。ひょっとしたら i P S の山中伸弥先生が「哲学の道」を散歩したことがあるから、などと誰かから聞いて・・・などと全く根拠のない推理を試みたが無駄な頭の消費に過ぎなかった。

これは、紅葉に彩られた「哲学の道」を一度歩いてみるしかない、と思いながら、肌寒くなったので、歩く気が失せていくわが輩が、ここに存在している。